

「パートナーシップ構築宣言」

# M.T.C が「パートナーシップ構築大賞」 中小企業賞



「第3回パートナーシップ構築シンポジウム」(2025年3月開催)で自社の取り組みを紹介する(株)M.T.Cの森久次社長

## 中小プレス・板金企業として初受賞

金属プレス加工・板金加工などを手がける(株)M.T.C(奈良県大和高田市、森久次社長)は、経済産業省が推進する「パートナーシップ構築宣言」の優良事例として、「パートナーシップ構築大賞」の「中小企業特別賞」を受賞した。

「パートナーシップ構築大賞」は2022年度に経済産業省が新設した表彰制度。今回が3回目の表彰で、金属プレス加工・板金加工を手がける中小製造業としてはM.T.Cが初めての受賞となる。

## サプライチェーン全体での共存共栄を目指す

経済産業省は2020年度から、関係府省庁とともに、サプライチェーン全体の共存共栄を目指す「パートナーシップ構築宣言」を推進している。

「パートナーシップ構築宣言」は、事業者が「発注者」側の立場から、「サプライチェーン全体の共存共栄と新たな連携」や「下請企業との望ましい取引慣行の遵守」について宣言し、ポータルサイトで公表するというもの。宣言・公表

### ● 2024年度「パートナーシップ構築大賞」受賞企業

経済産業大臣賞	山陽特殊製鋼(株)
中小企業庁長官賞	(株)日立プラントサービス
中小企業特別賞	デーバー加工サービス(株)
	(株)M.T.C
テーマ特別賞(GX表彰)	豊田合成(株)

した企業は、国や自治体の補助金で加点措置を受けられるなどのメリットがある。登録企業数は、2025年4月時点で6万3,000社を超えている。

経済産業省は、宣言のさらなる普及やサプライチェーン全体での協力拡大の機運醸成のため、2022年度に「パートナーシップ構築大賞」を新設。「パートナーシップ構築シンポジウム」を毎年度開催し、優良な取り組み事例を表彰している。

3月13日に開催された「第3回パートナーシップ構築シンポジウム」では、宣言を公表する約6万社の中から、同社を含む計5社の取り組みが優良事例として表彰された(表)。

## 2次サプライヤーの立場から上流・下流の双方に働きかけ

「中小企業特別賞」を受賞したM.T.Cは、住宅設備部品や鋼製家具部品などを手がける2次サプライヤーで、2021年に「パートナーシップ構築宣言」を行った。得意先にあたる1次サプライヤーと、協力企業にあたる3次サプライヤーの双方に働きかけ、1～3次のサプライチェーン全体で業務効率化に取り組んだ。

得意先(1次)に対しては、相互の生産管理システムを活用した効率的な受発注の手法を提案した。協力企業(3次)に対しては、発注元からの要望(品質基準・品質保証・工程管理・納期管理・工程短縮など)が増加・高度化している状況を踏まえ、さまざまな指導・支援を行った。

5Sをはじめとする品質管理業務の指導を行ったほか、同社(2次)と得意先(1次)が共有している文書・フォーマットを提供。記入方法などを指導することで、1～3次のサプライチェーン全体で情報共有を効率化した。

協力企業(3次)が目視・手作業で行っていた検品業務については、最新のAI画像カメラを使用した検査方法を推奨した。所持していない企業には貸与することで、検品業務に要する時間と労力を削減した。

今後、協力企業(3次)に対しては、加工指図書や検査書の提供、最新機器の情報共有・貸与などを検討していく。得意先(1次)に対しては、生産管理システムの共有推進や、新加工法の提案などを推進していく。さらに上流の発注元メーカーに対しては、新商品開発に対する提案や、品質管理規定に基づく監査対応、得意先(1次)との加工方法の共同提案などを目指していく。